



医師



新体制の糖尿病・内分泌内科について

糖尿病・内分泌内科部長 中島 英太郎

中部ろうさい病院の桜は、今年は例年になく早く散ってしまいましたが、私たち糖尿病内分泌内科には新しい風(風邪?)が吹き始めています。長年当科の発展を支えて頂いていた佐野副院長先生が退職され、私、中島が後任の第一部長を拝命いたしました。今後諸先輩方が築き上げたこの糖尿病・内分泌内科、糖尿病センターをさらに発展させていきたいと考えております。昨年の入院統計によりますと「糖尿病」で当科入院された患者さんは、371名でしたが、これは全国12位の数となりました。これも地域の皆様の暖かいご支援の賜と大変感謝いたしております。

新体制は、私以下、今峰ルイ副部長、小内裕、草間実、河合真理子、湊口(渡辺)槇子各医師のスタッフ6名および後期研修医での体制となります。外来は、上記スタッフに加え、今まで通り堀田饒名誉院長、河村孝彦副院長、金井彰夫健康診断部部長そして田中千愛非常勤医師により診療させて頂きます。

当センターで治療継続中の患者さんは現在約3,500名であります。元々昭和46年に専門外来として開設され、昭和62年より糖尿病センターとなりました。糖尿病の診断・治療・合併症管理について、単に血糖コントロールを行うだけでなく、患者さんの教育と療養指導を重視し、「患者さんの自己管理を目指して、患者さんに寄り添った医療を」をモットーに、患者さん個々の問題点に合わせた治療を目指しています。糖尿病療養チームでの患者さん指導には、

特に日本糖尿病協会が積極的に推進しているカンパセーションマップTMを積極的に取り入れ、週一回開催しています。

入院は、「1～2週間の糖尿病治療、血糖コントロール教育パス入院」に加えて、「インスリン自己注射導入入院」、「連続血糖測定(CGM)パス入院」などのパスコースを開設し、患者さまのニーズに細かく対応しています。(2泊3日コースは運用中止とさせて頂きました)

持続的インスリン注入ポンプ(CSII)や連続血糖測定器(CGM)などの最先端治療法も積極的に取り入れ、この地域の糖尿病患者さんが日本でも最新最善の治療を受けることができるよう、医療技術の進歩に積極的に対応しています。

以上新体制と当科現状のご報告をさせて頂きましたが、地域の皆さんには今後とも是非ご支援を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

※カンパセーションマップ™

カンパセーションマップ™は、すぐろくのような「会話のための地図」を使いながら患者さん同士のグループでの対話を通して、患者さんの治療意欲を高める事を目的とした、世界共通に使用されている新しい糖尿病の勉強ツールです。当院ではトレーニングを受けた協会認定ファシリテーター(進行役)が週一回の運営を行っておりますので是非、患者の皆さんに参加して頂きたいと思っております。現在年一回のファシリテーター養成講習会も開催しています。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。